

姫路獨協大学の平成27年度決算と平成28年度予算について

平成27年度決算について

(1) 事業活動収支(表1)(図表1)

事業活動収入計は、予算対比169百万円減の3,207百万円となりました。これは、平成27年度入学者数が予算に比べ減少したことから、学生生徒納付金や経常費等補助金が減少したことが主な要因となります。

一方、事業活動支出計は、予算対比149百万円増の3,970百万円となりました。予算では、看護学部棟改修経費や看護学部の教具購入経費を資金収支科目である施設・設備関係支出として計上しておりましたが、そのうち204百万円を教育研究経費に振替えて支出したことが主な要因となります。

この結果、事業活動収入から事業活動支出を除いた基本金組入前当年度収支差額は763百万円の支出超過となり、予算に比べ318百万円の支出超過となりました。

(2) 資金収支(表2)

翌年度繰越支払資金は、予算対比207百万円減の2,194百万円となりました。平成26年度末の繰越金からは40百万円の増加となりました。また、看護学部の設置に係る経費の財源については、私学事業団から410百万円の融資を受け、さらに学園本部から400百万円の支援を受けました。

平成28年度予算について

(1) 事業活動収支(表3)(図表2)

事業活動収入計は前年度予算対比341百万円増の3,717百万円を見込んでいます。看護学部開設に伴う学生生徒納付金の増加を見込んでいます。主な収入科目として、学生生徒納付金が2,728百万円、経常費等補助金が585百万円を見込んでいます。

一方、事業活動支出計は前年度予算対比473百万円増の4,294百万円を見込んでいます。看護学部開設に伴う経費の増加を見込んでいます。主な支出科目として、人件費2,441百万円、教育研究経費1,487百万円、管理経費263百万円となります。

この結果、事業活動収入から事業活動支出を除いた基本金組入前当年度収支差額は577百万円の支出超過となる見込みです。

(2) 資金収支(表4)

翌年度繰越支払資金は2,044百万円を見込んでいます。平成27年度末の繰越金からは349百万円の減少を見込んでいます。

◇主要な用語について

- 事業活動収入:当該年度に純粹に帰属する収入との意味で、資金収支計算書にある他人資金の借入金や次年度分の授業料等の前受金などは計上されない。
- 学生生徒納金:授業料、入学金、施設設備費、その他の実習費等。
- 手数料:入学検定料、証明手数料。
- 経常費等補助金:国や地方公共団体の他、日本国際教育協会からの援助金収入。
- 雑収入:退職金財団からの交付金を含む。
- 基本金組入額:学校会計では、事業活動収入からまず、学校の基礎となる資産と資金、将来計画のための資金、基金として継続的に保持する資産、恒常的安定経営のための資金の4項目を基本金として事業活動収入から確保し、残りを事業活動支出として運営に充てるように規定している。
- 事業活動支出:当該年度において消費される人件費、経費等と資金の移動を伴わない退職給与引当金繰入額、減価償却額が計上される。
- 人件費:専任の教員、職員及び非常勤の教員、アルバイト、パートの職員に関わる給与、賞与、各種手当、並びに健康保険、労働保険などの大学負担分(所定福利費)と、退職給与引当金繰入額の総額。
- 教育研究経費:教育研究に直接要する経費のほか、教育研究を補助するための事務費、学生厚生に要する経費、入学試験を実施するための経費、これらの諸活動を行う施設設備を維持するための経費、その施設設備に係わる減価償却額が計上される。
- 管理経費:大学を運営する総務、人事、経理及び対外的な広報活動に要する経費、教育研究に当たらない事業に要する経費、これらの諸活動を行う施設設備を維持するための経費、それに係わる減価償却額が計上される。
- 当年度収支差額:事業活動収入から基本金組入額を差し引いた合計と、事業活動支出の合計の差。当年度収支差額が支出超過の場合、学校会計では基本金という独自の考え方があり一概に赤字経営と決めつけることはできないが、収支のバランスを欠いているということはいえる。
- 基本金組入前当年度収支差額＝事業活動収入－事業活動支出

平成27年度 事業活動収支概要

表1

(単位:百万円)

科 目		項 目	平成27年度 予 算 A	平成27年度 決 算 B	対予算比 B-A
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,614	2,521	△ 93
		手数料	57	43	△ 14
		寄付金	10	7	△ 3
		経常費等補助金	444	401	△ 43
		付随事業収入	27	23	△ 4
		医療収入	0	0	0
		雑収入	118	144	26
		教育活動収入計	3,270	3,139	△ 131
	事業活動支出の部	人件費	2,000	2,094	94
		(うち退職給与引当金繰入額)	57	92	35
		教育研究経費	1,445	1,499	54
		(うち医療経費)	0	0	0
		(うち減価償却額)	482	424	△ 58
		管理経費	273	279	6
		(うち減価償却額)	37	35	△ 2
		徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	3,718	3,872	154	
			教育活動収支差額	△ 448	△ 733
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	22	14	△ 8
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	22	14	△ 8
	事業活動支出の部	借入金等利息	6	3	△ 3
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	6	3	△ 3
		教育活動外収支差額	16	11	△ 5
		経常収支差額	△ 432	△ 722	△ 290
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	54	24	△ 30
		法人負担金等収入	30	30	0
		特別収入計	84	54	△ 30
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	15	15
		その他の特別支出	0	0	0
		法人負担金等支出	77	80	3
		特別支出計	77	95	18
		特別収支差額	7	△ 41	△ 48
[予 備 費]			20	0	△ 20
基本金組入前当年度収支差額			△ 445	△ 763	△ 318
基本金組入額合計(△)			△ 367	△ 80	287
当年度収支差額			△ 812	△ 843	△ 31
(参考)					
事業活動収入計			3,376	3,207	△ 169
事業活動支出計			3,821	3,970	149

平成27年度 資金収支概要

表2

(単位:百万円)

年 度		平成27年度 予算 A	平成27年度 決算 B	対前年予算比 B - A
科 目				
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,614	2,521	△ 93
	手数料収入	57	43	△ 14
	寄付金収入	10	3	△ 7
	補助金収入	498	424	△ 74
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	27	23	△ 4
	受取利息・配当金収入	22	14	△ 8
	雑収入	118	144	26
	借入金等収入	420	410	△ 10
	前受金収入	655	469	△ 186
	その他の収入	2,097	2,149	52
	内部資金収入	400	400	0
	法人負担金収入	30	30	0
	資金収入調整勘定(△)	△ 541	△ 554	△ 13
	前年度繰越支払資金	2,194	2,154	△ 40
	収入の部合計	8,601	8,230	△ 371
支 出 の 部	人件費支出	2,035	2,129	94
	教育研究経費支出	962	1,075	113
	管理経費支出	236	243	7
	借入金等利息支出	6	3	△ 3
	借入金等返済支出	40	36	△ 4
	施設関係支出	586	364	△ 222
	設備関係支出	189	147	△ 42
	資産運用支出	1,864	1,818	△ 46
	その他の支出	371	348	△ 23
	内部資金支出	0	0	0
	法人負担金支出	77	80	3
	[予備費]	20	0	△ 20
	資金支出調整勘定(△)	△ 186	△ 207	△ 21
	翌年度繰越支払資金	2,401	2,194	△ 207
支出の部合計	8,601	8,230	△ 371	
繰越資金増減額	207	40	△ 167	
退職金支出	164	91	△ 73	

平成28年度 事業活動収支予算書

表3

(単位:百万円)

科 目		項 目	平成27年度 予算 A	平成28年度 予算 B	対予算比 B-A
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,614	2,728	114
		手数料	57	55	△ 2
		寄付金	10	10	0
		経常費等補助金	444	585	141
		付随事業収入	27	27	0
		医療収入	0	0	0
		雑収入	118	119	1
		教育活動収入計	3,270	3,524	254
	事業活動支出の部	人件費	2,000	2,441	441
		(うち退職給与引当金繰入額)	57	77	20
		教育研究経費	1,445	1,487	42
		(うち医療経費)	0	0	0
		(うち減価償却額)	482	450	△ 32
		管理経費	273	263	△ 10
(うち減価償却額)		37	35	△ 2	
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計	3,718	4,191	473		
		教育活動収支差額	△ 448	△ 667	△ 219
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	22	22	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	22	22	0
	事業活動支出の部	借入金等利息	6	6	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	6	6	0
		教育活動外収支差額	16	16	0
		経常収支差額	△ 432	△ 651	△ 219
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	54	146	92
		法人負担金等収入	30	25	△ 5
		特別収入計	84	171	87
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	0	0
		その他の特別支出	0	0	0
		法人負担金等支出	77	77	0
		特別支出計	77	77	0
		特別収支差額	7	94	87
		[予備費]	20	20	0
		基本金組入前当年度収支差額	△ 445	△ 577	△ 132
		基本金組入額合計(△)	△ 367	△ 265	102
		当年度収支差額	△ 812	△ 842	△ 30
(参考)					
		事業活動収入計	3,376	3,717	341
		事業活動支出計	3,821	4,294	473

平成28年度 資金収支予算書

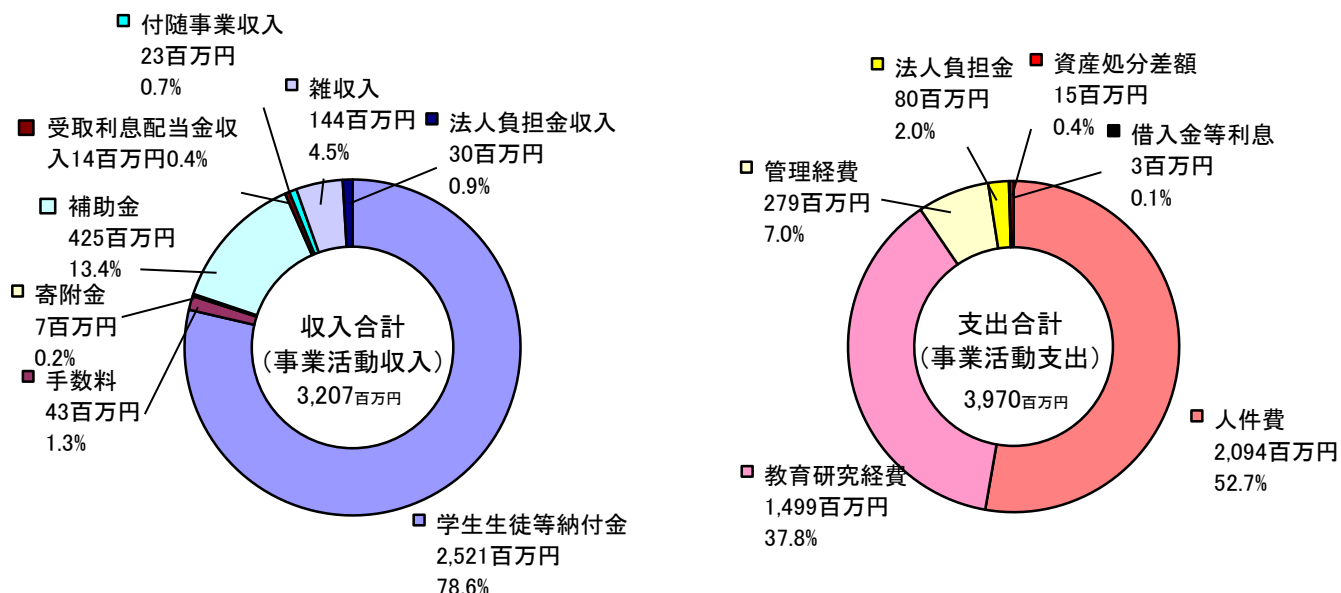
表4

(単位:百万円)

年 度		平成27年度	平成28年度	対前年予算比
科 目		予 算 A	予 算 B	B - A
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	2,614	2,728	114
	手数料収入	57	55	△ 2
	寄付金収入	10	10	0
	補助金収入	498	731	233
	資産売却収入	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	27	27	0
	受取利息・配当金収入	22	22	0
	雑収入	118	119	1
	借入金等収入	420	0	△ 420
	前受金収入	655	618	△ 37
	その他の収入	2,097	1,967	△ 130
	内部資金収入	400	0	△ 400
	法人負担金収入	30	25	△ 5
	資金収入調整勘定(△)	△ 541	△ 600	△ 59
	前年度繰越支払資金	2,194	2,393	199
	収入の部合計	8,601	8,095	△ 506
支 出 の 部	人件費支出	2,035	2,450	415
	教育研究経費支出	962	1,038	76
	管理経費支出	236	228	△ 8
	借入金等利息支出	6	6	0
	借入金等返済支出	40	64	24
	施設関係支出	586	149	△ 437
	設備関係支出	189	216	27
	資産運用支出	1,864	1,818	△ 46
	その他の支出	371	256	△ 115
	内部資金支出	0	10	10
	法人負担金支出	77	77	0
	[予備費]	20	20	0
	資金支出調整勘定(△)	△ 186	△ 281	△ 95
	翌年度繰越支払資金	2,401	2,044	△ 357
支出の部合計	8,601	8,095	△ 506	
繰越資金増減額		207	△ 349	△ 556
退職金支出		164	91	△ 73

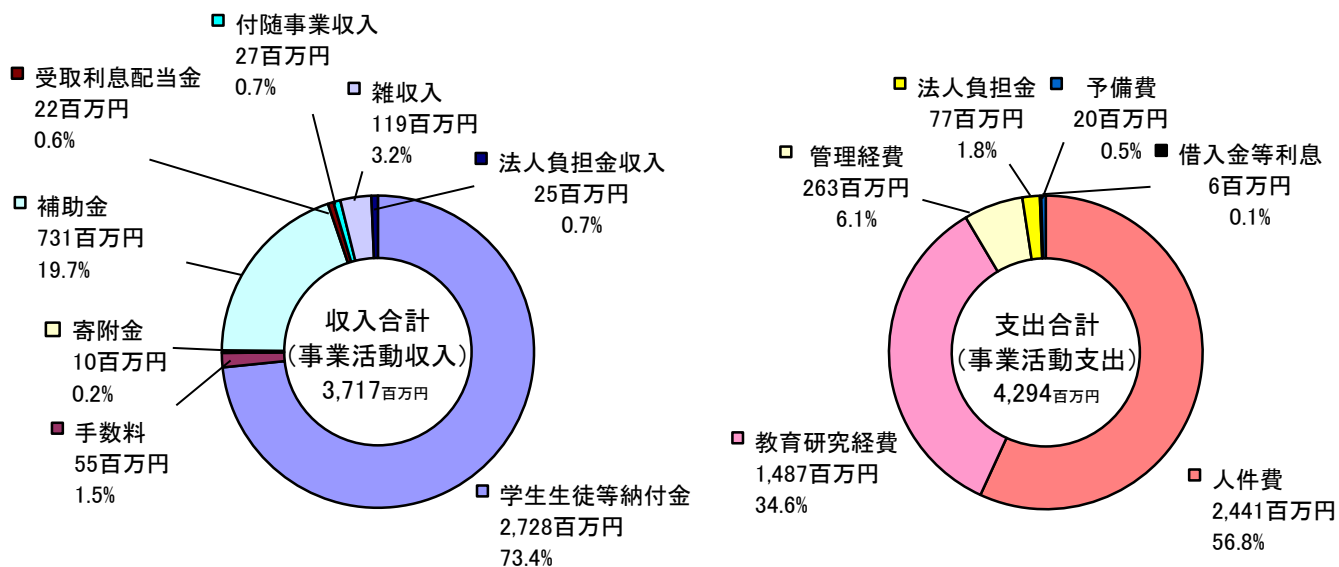
(図表1)

平成27年度 事業活動収支決算 科目別構成



(図表2)

平成28年度 事業活動収支予算 科目別構成



〔姫路獨協大学〕

I 予算編成の方針と概要

平成26年9月に策定された「獨協学園第9次基本計画（2014年度）」（以下「基本計画」と表記）では、平成32年度までの財務計画において、平成28年度から看護学部の設置及び文系学部の人間社会学群への再編により新たな教育体制で安定的な経営基盤の構築を図ることが主な内容となっています。基本計画の2年目にあたる平成28年度予算については、看護学部および人間社会学群の開設に係る経費を新たに計上する一方、教育研究経費・管理経費については、これまでに実施してきた削減策を継続することによって、基本計画で策定した数値目標の達成を目指します。限られた財源を有効に配分し高等教育機関として相応しい教育環境を提供し、在学生の満足度を高めることに重点を置いた予算編成に努めます。主な事業計画案は以下のとおりとなります。

＜＜教学関係＞＞

- (1) 看護学部開設においては、医療を担う人材が不足している昨今、高齢化への対処や在宅医療の推進など多様化するニーズに応えられるよう保健・医療・福祉の分野において幅広い視野で捉え、チーム医療の一員として活躍できる看護職者を養成します。
- (2) 人間社会学群開設においては、「国際言語文化学類」「現代法律学類」「産業経営学類」を設け、従来の学部組織よりも柔らかな枠組みと学生個人の自主性や興味を支援する学びを実現します。
- (3) 国家試験対策においては、医療保健学部・薬学部学生を対象に、きめ細やかな学習指導を実施することにより合格率の向上のためのサポートを継続して強化します。
- (4) 奨学金制度においては、財源を見据えながら優秀な資質を有する学生並びに経済的理由により学業に支障をきたしている学生に対し学業を奨励し有為な人材の育成を支援します。
- (5) 学習支援センターにおいては、学生のさまざまな不安や要望に応え、学生の基礎学力向上のために、教員が親身になって相談し指導します。
- (6) 活性化取組施策においては、本学が魅力ある大学となるために、教育改革、学生ケア等をテーマとする先駆的な取組を行い、大学の活性化を促進します。

＜＜地域関係＞＞

- (1) 駅前サテライト教室においては、生涯学習機能の充実を図るほか、大学院の授業、就職活動の拠点として活用します。

- (2) 公開講座においては、地域に開かれた大学、地域とともに歩む大学として、地元の方々を対象に開講します。

《管理・運営関係》

- (1) 広報活動においては、本学の社会的貢献をアピールしブランド力を高めさらに受験生・保護者への認知度を高めることに努めます。
- (2) 大学案内においては、魅力ある大学をアピールするために高等教育機関としての教育体制を詳述するとともに、多数の学生の生き生きとした学生生活や活躍を紹介します。

《施設関係》

- (1) サッカー場の人工芝改修整備事業を行います。ロングパイル人工芝を用いた全天候型のサッカー場に改修します。地域貢献の一環として、市民の方々への開放も予定しています。(補助金申請予定)
- (2) 薬学部棟動物実験施設の改修工事を行い医療保健学部・薬学部の複雑化する動物実験研究に対応して効率的な環境に配慮した施設の整備を行います。
- (3) 本部棟および厚生棟のトイレ改修工事を行い、衛生面や使い易さを考慮した改修を行います。

《設備関係》

- (1) 看護学部に係る教具・備品・図書等の整備を行います。
- (2) 学生食堂の改修工事を行います。学生や地域の方々が気軽に利用出来るように改修を行うとともに、食堂運営業者についても地元の企業に委託し、行き届いたサービスを提供します。(補助金申請予定)
- (3) 薬学部が教育・研究で使用している機器(共焦点レーザースキャン顕微鏡)の取替更新を行います。(補助金申請予定)

II 主な予算編成内容(基本計画との比較について)

事業活動収支予算書

1. 「教育活動収支」

(1) 収入の部

- ① 学生生徒等納付金 2, 728百万円

基本計画対比223百万円の減少を見込んでいます。在籍学生数が基本計画対比で219人減少し、1,951人となる見込みであることが主な要因

となります。入学予定者数は516人で、基本計画対比で154人の減少を見込んでいます

②手数料 55百万円

基本計画と同額を見込んでいます。

③寄附金 10百万円

基本計画と同額を見込んでいます。

④経常費等補助金 585百万円

基本計画対比27百万円の減少を見込んでいます。収容定員充足率に伴う増減率の悪化が主な要因となります。

⑤付随事業収入 27百万円

基本計画と同額を見込んでいます。内訳は補助活動収入6百万円、公開講座事業収入4百万円、受託事業収入17百万円となります。

⑥雑収入 119百万円

基本計画対比23百万円の増加を見込んでいます。内訳は退職金財団資金収入（教員5人分）83百万円、施設設備利用料収入23百万円、雑収入（科研費間接経費等）13百万円となります。

⑦教育活動収入 合計 3,524百万円

基本計画対比227百万円の減少を見込んでいます。

(2) 支出の部

①人件費 2,441百万円

基本計画対比69百万円の増加を見込んでいます。基本計画では未計上の退職者が見込まれることから退職給与引当金繰入額が43百万円増加となることが主な要因となります。

②教育研究経費 1,487百万円

基本計画対比101百万円の減少を見込んでいます。過年度に実施した施設関係の改修経費を基本計画では施設関係経費として予算計上していましたが、実際には経費の大半を修繕費で予算執行したことから減価償却額が基本計画に比べ大幅に減少したことが主な要因となります。

③管理経費 263百万円

基本計画対比66百万円の減少を見込んでいます。基本計画で計上していた看護学部の経費が減少したことが主な要因となります。

④教育活動支出 合計 4,191百万円

基本計画対比98百万円の減少を見込んでいます。

- (3) 教育活動収支差額 △667百万円
基本計画対比129百万円の悪化を見込んでいます。

2. 「教育活動外収支」

(1) 収入の部

- ①受取利息・配当金収入 22百万円
②教育活動外収入 合計 22百万円
ともに基本計画と同額を見込んでいます。

(2) 支出の部

- ①借入金等利息 6百万円
②教育活動外支出 合計 6百万円
ともに基本計画対比1百万円の増加を見込んでいます。

- (3) 教育活動外収支差額 16百万円
基本計画対比1百万円の悪化を見込んでいます。

- ## 3. 「経常収支差額」 △651百万円
- 基本計画対比130百万円の悪化を見込んでいます。

4. 「特別収支」

(1) 収入の部

- ①その他の特別収入 146百万円
基本計画対比146百万円の増加を見込んでいます。
基本計画では未計上の施設・設備関係の補助金を見込んでいます。
- ②法人負担金収入 25百万円
基本計画と同額を見込んでいます。内訳は特待生奨学金20百万円と特別
学業支援奨学金5百万円となります。
- ③特別収入 合計 171百万円
基本計画対比146百万円の増加を見込んでいます。

(2) 支出の部

- ①法人負担金支出 77百万円
②特別支出 合計 77百万円
ともに基本計画と同額を見込んでいます。

(3) 特別収支差額 94百万円

基本計画対比146百万円の改善を見込んでいます。

5. 「基本金組入前当年度収支差額」(帰属収支差額)

基本計画対比16百万円改善の△577百万円を見込んでいます。

6. 施設・設備整備計画について

(1) 施設関係 149百万円

基本計画対比38百万円の減少を見込んでいます。

①サッカー場の人工芝改修工事を行います。(100百万円)

②動物実験施設の改修工事を行います。(30百万円)

③トイレ改修工事(本部棟・厚生棟)を行います。(11百万円)

④その他(8百万円)

(2) 設備関係 216百万円

基本計画対比123百万円の増加を見込んでいます。

①看護学部に係る図書・備品等の整備を行います。(78百万円)

②学生食堂の改修工事を行います。(75百万円)

③薬学部共焦点レーザスキャン顕微鏡の更新を行います。(54百万円)

④その他(9百万円)

7. 金融資産残高について

①固定資産(引当特定資産等) 1,821百万円

基本計画と同額になります。

②流動資産(現金預金) 2,044百万円

基本計画対比26百万円の増加となります。

③外部借入金 804百万円

基本計画対比9百万円の減少となります。

④学園内貸借 450百万円

基本計画と同額になります。

⑤実質金融資産残高 2,611百万円

基本計画対比35百万円の増加となります。

Ⅲ 主な事業計画の概要

[姫路獨協大学]

単位:百万円

事業名	事業内容	28年度予算
1 教学関係		
1) 看護学部開設	1)医療を担う人材が不足している昨今、高齢化への対処や在宅医療の推進など、医療分野に求められる役割はさらに広がっています。そうした複雑多様化するニーズに応えられるよう、保健・医療・福祉の分野において幅広い視野で捉え、チーム医療の一員として活躍できる看護職者を養成します。	—
2) 人間社会学群開設	2)「国際言語文化学類」「現代法律学類」「産業経営学類」を設ける学びの体系は従来の学部組織よりも柔らかな枠組みと学生個人の自主性や興味を支援する学びを実現します。	—
3) 国家試験対策	3) 医療保健学部・薬学部学生を対象に、きめ細やかな学習指導を実施することにより合格率の向上のためのサポートを継続して強化します。	15
4) 奨学金制度	4) 優秀な資質を有する学生並びに経済的理由により学業に支障を来している学生に対し学業を奨励し有為な人材の育成を支援します。	209
5) 学習支援センター	5) 学生のさまざまな不安や要望に応え、学生の基礎学力向上のために、教員が親身になって相談し指導します。	6
6) 大学活性化取組施策	6) 本学が魅力ある大学となるために、教育改革、学生ケア等をテーマとする先駆的な取組を行い、大学の活性化を促進します。	10

2 地域関係 1)駅前サテライト教室 2)公開講座の開催	1)生涯学習機能の充実を図るほか、大学院の授業、就職活動の拠点として活用します。 2)地域に開かれた大学、地域とともに歩む大学として、地元の方々を対象に各種講座を開講します。	8 4
3 管理・運営関係 1)広報活動 2)大学案内	1)本学の社会的貢献をアピールしブランド力を高め、さらに受験生・保護者への認知を高めます。 2)魅力ある大学をアピールするために高等教育機関としての教育体制を詳述するとともに、多数の学生の生き生きとした学生生活や活躍を紹介します。	56 20
4 施設関係 1)サッカー場人工芝改修工事 2)動物実験施設改修工事 3)トイレ改修工事	1)ロングパイル人工芝を用いた全天候型のサッカー場に改修します。地域貢献の一環として、市民の方々への開放も予定しています。 2)医療保健学部・薬学部の複雑化する動物実験研究に対応して効率的な環境に配慮した施設の整備を行います。 3)本部棟および厚生棟のトイレ改修工事を行い、衛生面や使い易さを考慮した改修を行います。	100 30 11
5 設備関係 1)看護学部設備整備 2)学生食堂改修工事 3)共焦点レーザーสキャン顕微鏡	1)看護学部に係る教具・備品・図書等の整備を行います。 2)学生や地域の方々が気軽に利用出来るように改修を行います。食堂運営業者についても地元の企業に委託し、行き届いたサービスを提供いたします。 3)現行機器の経年劣化による取替更新を検討します。	78 80 54

以上